

富山市定例市長記者会見（令和5年1月20日）

■冒頭

市長

それでは定例記者会見を始めさせていただきます。報道の皆さんにはお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

■「富山市SDGsウィーク」の実施について

市長

本市は、2018年に国のSDGs未来都市に選定されて以降、SDGsの普及啓発を図るため、毎年、SDGsウィークを開催しており、5回目となる今回は、1月21日から29日にかけて実施いたします。

開催期間中、市内各所において官民が協働してSDGsに関連するイベントを集中的に開催することで、市民の皆さまが日常の暮らしの中でSDGsを自分ごととして意識し、具体的に取り組んでいただく一助になればと考えております。

なお、このSDGsウィークは、今年5月に富山県・石川県の両県で共同開催されるG7富山・金沢教育大臣会合の関連事業として位置付けております。各イベントを通して、未来の宝である子どもたちがSDGsを学び、発信する機会を積極的に設けてまいります。

期間中は、地域課題や課題解決策を若者が議論する「ユースミーティング」や、子どもから大人まで参加できる「こどもみらいSDGsフォーラム」をはじめ、セミナーやワークショップ、シネマの上映等のイベントを実施いたします。

1月28日（土）の午後には、本ウィークの集大成として、「富山市SDGs推進フォーラム」を開催いたします。このフォーラムでは、パフォーマンスアーティストとして、世界的にご活躍されているサカクラカツミさ

んをお招きし、そのパフォーマンスをご披露いただき、その後、基調講演をお願いすることとしております。

また、本市のSDGs未来都市戦略会議の委員である藤田^{ふじたかおり}香さんにコーディネーターとなっただき、サクラさんと富山ユネスコ協会長の高^{たか}木^ぎ要^よ志^し男^おさんに、私も加わり、「大人も子どもも自分らしく ～誰一人取り残さない社会へ～」と題しまして、パネルディスカッションを行うこととしております。

このSDGsウィークを通して、市民や企業の皆さまがSDGsについて考え、実践する機会となればと考えております。多くの方々のご参加をお願いいたします。

■令和4年度富山市防災講演会の開催について

市長

本市では災害に対する知識と理解を深め、日頃からの備えに役立てることを目的として、毎年度、市民等を対象とした防災講演会を開催しております。

今年度は、2月8日（水）13時30分から、富山県教育文化会館2階ホールを会場として開催します。

講師には、国土交通省北陸地方整備局河川部河川調査官の齋藤^{さいとうあつし}充さんをお迎えし、「水災害と防災・流域治水について」と題しまして、富山の特性から見た水災害と防災について、最近の豪雨災害や流域治水の取組を交えた内容でご講演いただきます。

講演会への参加は無料となっておりますので、防災への意識を高めるきっかけとして、多くの市民の皆さまにご参加いただきますよう、ご案内いたします。

なお、応募方法など詳細につきましては、担当の防災危機管理課までお尋ねください。

■「富山映像大賞 GALA(前夜祭)」の開催について

市長

本市では、令和5年度に開催を予定している短編映像作品のコンクール、富山映像大賞 2023 をより多くの市民に知っていただくこと、本市の魅力を市内外へ発信し、継続的な賑わい^{にぎ}を創出することを目的として、市民等を対象とした富山映像大賞 GALA を開催します。

1月28日(土)13時30分から、JMAX THEATER^{ジェイマックス シアター}とやまを会場として、募集テーマなどの発表や富山出身の俳優やタレント、映像の専門家によるトークセッションを実施します。

前半部のイントロダクションでは、富山市出身の俳優の内浦純一^{うちうらじゅんいち}さん、よしもと富山県住みます芸人のノビ山本さん、後半部のメインイベントでは、東京芸術大学特任教授で富山市政策参与^{いとうじゅんじ}の伊東順二氏、吉本興業ホールディングス株式会社代表取締役会長の大崎洋^{おおさきひろし}氏、映画監督で日本映画監督協会理事長、富山市政策参与^{もときかつひで}の本木克英氏をお迎えし、「メディアを活かしたまちづくり」をテーマにメディアの持つ可能性について語っていただくこととしております。

当日の入場は無料となっておりますので、多くの市民の皆さまにこぞってご参加いただきますようお願いいたします。

■報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

県内の新型コロナウイルスの感染状況については、感染者数、入院者数ともに高い水準で推移しております。

また、インフルエンザも流行期に入っており、発熱外来が非常に逼迫^{ひっぱく}した状況が続いております。

市民の皆さまには、これ以上の感染拡大を防ぐためにも、こまめな換気、体調不良時には外出を控えること、会食時の換気などの感染（防止）対策を徹底していただきたいと思っております。

また、発熱外来を速やかに受診できない場合に備えて、ご自身で感染確認ができる新型コロナ抗原検査キット、自宅療養に必要な解熱鎮痛薬や食料などのご準備を、引き続き、お願いいたします。

加えて、基本的な感染対策とあわせ、新型コロナウイルスワクチン及びインフルエンザワクチンにつきましても、まだ接種がお済みでない方は接種をご検討いただきますようお願いいたします。

なお、新型コロナウイルスワクチンの接種状況につきましては、お手元の資料のとおり、オミクロン株対応ワクチンを接種された方は1月19日現在で165,514人、全人口に対する接種率は40.2%となっております。

私からは、以上です。

■ 質疑応答

記者

新年度予算案の市長査定が始まりましたが、主な事業など、お答えできるものがあれば教えてください。

市長

昨日、(新年度予算の)基本となる市長協議を終えたところであり、詳細についてはお答えできませんが、この後、市長復活や最終調整等、引き続き予算協議が続いていきますので、しっかり取り組みたいと思っています。

当初予算編成であります。ちょうど私の任期がこの4月で折り返しになります。当初から皆さんにお伝えしているとおおり、コンパクトシティを深化させスマートシティを融合させていく、スマートシティの推進によってコンパクトシティを深化させていくということを申し上げておりますが、いよいよ目に見える形でスマートシティの実現に向けて、事業を推進してまいりたいと考えております。そのためにスマートシティ推進ビジョ

ンを策定しておりますし、スマートシティ推進ビジョン特別枠も設けて、各部局から積極的な事業提案を受けたところでもあります。私も実現可能性のあるワクワクするようなアイデアがいくつかあがってきていますので、しっかりと事業化して進めてまいりたいと思っています。

また、執務始め式の時に職員に、原点回帰ということをしかりともう1回やろうじゃないかと（申し上げました）。私が市長に就任してから、一つにコロナ（対応）があります。新型コロナウイルス感染症対応に^{ほんろう}翻弄された、取り組んできた前半戦だったと思っています。私たちは何のために、誰のために仕事をしているのかということが大事であり、それは市民のためでありますので、そのような原点に立ってしかり自分の足元を見つめて仕事をしていこうということも申し上げた次第であります。

富山市はG7教育大臣会合もあり、教育には熱心な市でありますし、富山県が（教育に）熱心な県民性でありますので、教育も大事であります。産業や文化、防災・減災、あるいは高齢化に伴う高齢者福祉が非常に大事だと思います。また、コロナ禍で不登校の児童生徒が増加の傾向にあるということ、あるいは現在、一生懸命、鋭意対応中ではありますが、保育の現場や教育現場において、あってはならない事故等が起きてきているということも鑑みて、そのような子育てや子どもの成長に資する分野の福祉も非常に大事になってくると考えております。こういうことを総合的に原点に回帰しながら、足元を見つめて、しっかりと再構築、てこ入れを図っていきたくて考えております。

一昨日、ダブルツリーbyヒルトン富山の開業式典に出席してまいりました。駅周辺を中心にマルートなども含めて商業施設やホテルも出店しております。（ダブルツリーbyヒルトン富山は）外資系のホテルでありますので、アジアオセアニアの責任者の方も来ていらっしゃいました。その方とお話をしていたら、観光というのは非常に大事である、世界的に観光需要にどう取り組んでいくか、それは富山県や富山市、北陸にとっても非常に大事だろうというお話でした。外国から見ると、富山、金沢、福井、高山という（個別のエリアとしての）見方ではなく、北陸というエリアで考えたり見たりするそうです。だから、観光を考える時も、近隣市、（近隣）

県や北陸にとって、どのように滞留していただいて滞在していただくかということを考えて観光政策を打ち出されたらどうですかというご意見もいただきました。また、そのために私たちは拠点となるホテルをここに出店したんですよという話もお聞きしました。金沢とのガストロノミーツアー【※】なども含めて、アフターコロナに向けて広域観光を行っていきたいと思っています。お隣の飛騨市もそうであります。このように考えると、観光にもまた力を入れてまいりたいと思っています。

【※】 その土地ならではの食・自然・文化を楽しむ旅

個別の事業につきましては、(後日、当初予算案の概要について) 記者発表を行いますので、そこで申し上げたいと思います。

いずれにしましても、報道等では、政府も新型コロナ(感染症法上の位置づけ)を2類から5類に引き下げる準備を始めたということも、昨日、今日でかなり大きく報道されていますので、こういうことに地方の自治体としてもしっかりと呼応して、例えば今ほど申し上げたインバウンドや、ビジネスマンの滞在、産業の面も含めて、しっかり取り組んでまいりたいと思っています。

記者

新型コロナ(の感染症法上の位置づけ)が2類から5類への引き下げられることについて、市長の率直な受け止めをお聞かせください。

市長

適切な判断を、国がこれからされるんだと考えています。私たちも、(国の)方針を経て、市独自でやらなければならないこともあるかもしれませんが、基本的にはその方針に従っていきたいと考えています。

私も常々感じていますが、やはりこのマスク生活が子どもたちの発達、情緒の発達にどのように影響していくのかということも心配です。また、私たちがいろいろな方とコミュニケーションをとる中で、顔の半分、口の部分がわからないというのは非常にコミュニケーションにとって大きな障壁だと思っています。できれば、公共の場や医療の場、公共交通の中で

はある程度、制限がかかるのかもしれませんが、マスク生活については緩和の方向で考えていただきたいと考えています。

記者

県が整備を進めている児童相談所について、C i C等との2拠点化をするのではないかという報道が出ました。市として児童相談所の運営にどのように関わっていきたいか、市長の思いをお聞かせください。

市長

県と市がしっかり情報交換しながら、そこまで至っていると認識しておりますので、大きな方向性、2拠点化、そして新聞紙上で報道されたことについては、市としてもそのようになっていくように協力していきたいと考えています。

特に思い入れが強いのは、私が県議会議員時代に自分の所属する会派の政務調査会長をやらせていただいていた、その時に立ち上げたプロジェクトチームが、児童相談所を今後どうしていくか、子供の権利を守っていくためにどうしていくかということを推進していくプロジェクトチームだったので、そのような仲間と熊本や京都などの先進地を何度も視察したり、専門家を呼んで勉強会をしたりしながらやってきたことが、今日、立場は違いますが結実していくということで、非常に良いことではないかと（思っています）。私としてもしっかり対応していきたいと思っています。

それともう一つは、政府も「こどもまんなか社会」と言っていますが、問題を抱えたお子さんやそのようなお子さんのいるご家庭など、困っていらっしゃる方々の目線で、使い勝手の良い施設になるべきだと思います。そのようになるよう、県主導で（整備）されていくということなので、2拠点化も含めて実現すれば、県民や市民にとって相談しやすい、頼りがいのある施設になっていくのではないかと期待しています。

記者

（新型コロナが）5類に引き下げられることでいろいろな制約が解除さ

れて変わる部分もあると思いますが、引き下がることでの期待と課題についてどのようにお考えですか。

市長

期待は先ほど申し上げましたが、(マスクをすることが) 児童、生徒の発達、発育にとってどう影響していくのかという私の懸念が、まずはマスクがなくなることによって払拭されますよね。例えば、幼児期に保育士さんと接するときマスク越しに接するというのは情緒が発達する段階では障壁になってくるのではないかという心配もしています。(また、) 大学生の皆さんがリアルにキャンパスで友達と交わったり、授業を講義室で受けたり、ゼミの仲間と研修に行ったり、時には夜に先生を囲んでお酒を飲んだり、学生時代に(仲間と)勉強することや楽しむこと、交流すること、知見を広げること、コミュニケーションをとるといったことが、マスク(越しであること)や、その場所行くことができない、集えないということで一定期間奪われました。そういう方々が社会人になって、企業やいろいろな世の中の荒波の中に出た時に、コミュニケーションなどにどう影響していくんだろう(といった懸念)、このようなことが払拭されていくということは非常に良いことではないかと思います。

それともう一つは、いろいろな制限が緩和されることで経済活動が元に戻りやすくなります。完全に戻るかどうかは、新しい生活様式も定着していますので(コロナ禍前のような)元に戻るということはないかもしれませんが、移動の自由や集まって何かをやる、お祭りや事業をやることに制限などもなくなってくると思いますし、人間にとって一番大事なフェイストゥフェイスの部分が、産業活動や経済活動でもしっかりと発揮されて、早く良い経済の循環が生まれてくれば良いと期待して(います)。これは好循環の部分であります。

問題点はやはり皆さんも危惧するように、新しい変異株が出てきたときに、すぐにマスクも含めて基本的な感染(防止)対策がとれるかどうかという問題もありますし、(感染防止対策を)とる前に感染爆発が起きて医療逼迫ひっばくが起きたらどうするのか(といったことがあります)。ですから、メリハリのある緩め方というか、医療現場や公共交通機関の中、薬局、病院の

中などではマスク（着用）で、その他の外出している（屋）外や教育現場はノーマスクというように、どのようになるかはわかりませんが、メリハリをつけた、しっかりとした方針を示していただきたいと思います。

記者

保健所の業務について、5 類になることでかなり緩和されることが期待されますが、業務の^{ひっばく}逼迫などについてどのようにお考えですか。

市長

5 類になっても、今のインフルエンザの対応も含めて、富山市保健所の役割は大きいと思います。加えて市民病院やまちなか病院なども含めて、医療関係者にかかる責任も大きいものがあるのではないかと思います。5 類に引き下げられることによって、基本的には今のインフルエンザに対応していくようなイメージになってくると思いますので、教育現場なども含めて、5 類に引き下げられてもしっかりとコロナに対応できるように備えておきたいと思っています。

保健所はコロナ禍が発生してから3年、富山市においては3年近くになりますが、本当にたくさんの職員が、言葉では言い表せないぐらいに苦勞されて今日まで対応してきました。他の部局もそれに呼応して応援の人材を保健所に派遣したりして、いわゆるオール富山市で対応してきたことでもあります。そこに、富山県や富山大学付属病院からもいろいろなアドバイス受れたりしながら（対応してきました）。今日、この状態まで回復してきたことは、本当に保健所（の職員）が頑張ったんだと思っています。

記者

業務が緩和されるという期待もあるということでしょうか。

市長

もちろん緩和されていくと思います。

記者

本日、この後、市町村合併検証委員会の検証結果の答申があると思いますが、その検証についての今の受け止めと、(検証結果を)どのように捉えていきたいかお聞かせください。

市長

平成 17 年の合併の時に各市町村が合併後のその地域、旧町村、旧市のあ
るべき姿を描いて今日に至っています。例えば、道路の整備や医療の関係、
福祉の関係、上下水道といった社会インフラも含めて、当初の目的が達成
できたもの、あるいはその達成に至らなかったもの、あるいは合併してか
ら今日までの時の流れの中で必要がなくなって廃止したものなど、さまざ
まな具体的な視点で評価をいただいていると伺っています。しっかりと検
証の結果を受け止めて、今後の富山市にとって、合併の時に目標にしてま
だ達成されていないもの、その中でも達成していく必要があるものは何か
ということも伺いながら、新たな施策の一つの方向性を出していきたいと
思っています。

合併してから 17 年、しっかりと検証をしたというのは初めてでありま
す。特に今日は後ほど(市町村合併検証委員会委員長の)辻先生から、(合
併検証の)内容の説明を伺うことになっていますが、私も楽しみにしてい
ます。

=====

記者

先ほど質問のあった児童相談所について伺います。過去に富山市でも富
山市として児童相談所を設置するかどうかについて議会等で議論があっ
たかと思います。今回富山児童相談所が 2 拠点化することも踏まえて、今
後、富山市として児童相談所を設置するかどうかについてどのようにお考
えですか。

市長

もちろんそういう議論をすることが非常に大事なので、そのような議論
もあったと思いますが、今回の富山県の 2 拠点化する新しい児童相談所は、
富山市はもちろんそうではありますが県東部を(管轄することを)見込んで
いる、そして、もっと広く言えば、全県からも対応できると(伺っていま

す)。県西部には高岡に一つ新しい児童相談所が（昨年）できましたが、今回富山市に設置する新しい児童相談所は、県東部、あるいは必要があれば全県から来ていただくような機能もあるとお聞きしていますので、そこには専門的な資格を持ったスタッフや経験を積んだスタッフが必要なわけです。県と市がしっかりと役割を分担さえすれば、市が独自に同じ機能を持つ児童相談所を設置する必要は全くないと考えていますので、うまく連絡調整しながら、お互いの強みを発揮できるように、今の状態はそうであると思っていますので、今後も、新しい児童相談所で連携するものを連携させ、新しい価値を生み出して、より良いものになっていけば良いと思っています。

記者

現在、富山児童相談所に富山市から職員が派遣されていますが、新しい児童相談所にも富山市として職員の派遣を検討されていますか。

市長

富山市は2名の職員を2年交代で1名ずつローテーションしながら派遣しています。人員の増についてはもちろん私たちも考えています。それは仕事の内容によると思います。（富山市が派遣する職員が）どのようなところをどのように担っていくかということだと思いますので、そういうことも含めて、今後、検討していきたいと思っています。

また、今月25日に県の会議があると担当部長から聞いていますので、そこで市への要望、その中身の発表も含めて、市の担うべき役割を明らかにされると伺っていますので、その後、議論していくということだと思います。

=====

記者

昨年末に私立の認定こども園で虐待事案があり、立ち入り調査なども行われましたが、いつごろまでに区切りを迎えられそうなのか、現状を教えてください。

市長

できれば年度内にしっかりと指導を出していきたいと思っています。

記者

それは何らかの行政処分ですか。調査結果ですか。

市長

行政としてのひとつの区切りです。当該園に対して（行政指導を）行っていきたいと思っています。

=====

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課